

2014年
1月1日
No.180

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24
浦谷貞子 気付
さざなみネット
(金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
TEL・FAX 077-545-5154



明日は よまぬま でま まら



賃上げと安定した雇用を！ 意気高く取り組み 存在感を示そう

新年 明けましておめでとうございます。

安倍政権はこの1年間、暴走に次ぐ暴走を繰り返して国民の不安と批判を招いてきました。国民の目、耳、口をふさぐ秘密保護法を強行採決し、多くの国民が反対しているのに、今年4月からの消費税増税を強行しました。暮れに強行した靖国神社への参拝は、中国、韓国をはじめ、異例の「失望」を表明したアメリカやロシア、EUなど、厳しい批判を巻き起こしています。

(参考 裏面 全労連談話)

秘密保護法の撤廃や「原発ゼロ」、消費税増税阻止、TPP参加阻止など様々な分野で、一致する要求や課題で共同する「一点共闘」が広がっています。

賃上げと安定した雇用は、

労働者の切実な要求であり、すべての国民の願いです。「仕事がある」ことは、国民生活と社会の安定の基盤です。賃上げと安定した雇用は、日本経済の長期低迷から抜け出し、持続可能な成長への道を切り開くうえでも最重要で、国民的な大義を持った課題になっています。

正社員も、非正規雇用も、民間も、公務も違いをこえて、労働者・国民の連帯で、労働法制の全面改悪を許さず、人間らしい雇用を実現する、大きな共同をつくりあげましょう。

今春闘では、私たち労働組合が元気に思い切った賃上げ要求を掲げて、意気高く取り組み大いにその存在感を示していきましょう。



全国金融産業労働組合
近畿支部滋賀分会
さざなみネット)
分会長 浦谷 貞子



再起へ駆ける

岩波 美智子さん 画

午

① 十二支の7番目。

② 方位。南。

子午線の語はこれによる。

③ 昔の時刻。真昼の12時。

正午と言うのはこれが由来。

またそれを中心とした2時間。

④ 月では陰曆5月。(概ね新曆6月)

「午」は「杵きね」の原字で上下に交差し、餅をつく杵を描いたもの。12進法では、前半(午前)が終わり、後半(午後)が始まる位置にあり、その交差点を「正午」といふ。

馬

馬は生まれてすぐに立ち上がることができる。

ることから立身出世の象徴とされ、「物事がうまうまくいく」「幸運が駆け込んでくる」などといわれる縁起のいい動物です。

人との付き合いが古い動物で、人の役に立つので大事にされてきました。

馬は神の乗用として、また祈願祈祷のため、神社に奉獻されました。

力強い馬のように、今年は飛躍の年になるようがんばりたい。



【談話】

「戦争できる国」への暴走に強く抗議する 安倍首相の靖国参拝を個人の「信条」として見過ごすことはできない

12月26日午前、安倍首相は、東京・九段の靖国神社に参拝した。国民感情や第2次世界大戦後の国際秩序、韓国、中国などの近隣諸国との友好関係への配慮を欠き、それらを著しく蹂躪する安倍首相の行為に、満身の怒りを込め、強く抗議の意思を表明する。

靖国神社は、日本の過去の侵略戦争遂行の「道具」とされた歴史がある。にもかかわらず、戦後も一貫して、侵略戦争を「自存自衛の正義のたたかい」、「アジア解放の戦争」と美化し、その主張を宣伝、流布する施設として存在し続けてきた。

その施設に、政府のトップが参拝することは、その形態如何にかかわらず、侵略戦争を肯定する立場に日本が立っていることを世界に宣言するに等しい行為である。

今回の安倍首相の靖国参拝に対し、韓国政府が「誤った歴史認識をそのまま表したもので・・・東アジアの安定と協力を根本から損なう時代錯誤の行為」と厳しく非難し、中国政府が「国際正義への公然たる挑戦」と強く抗議したのは当然のことである。

同盟国であるアメリカからも「失望」が伝えられたように、「英霊に尊崇の念を表明することは国のリーダーの役割」などという安倍首相の主張は独善的なものであり、国際社会からも到底受け入れられるものではない。

夏の参議院選挙後、「戦争ができる国」づくりに向けた安倍首相の独裁的暴走が続いている。先の臨時国会では、国家安全保障会議設置法や特定秘密保護法の成立が強行された。

臨時国会後は、設置した国家安全保障会議の「密室」で、専守防衛という自衛隊のあり様を大きく変更する「国家安全保障戦略」などを決定し、アフリカ・スーダンでの紛争の激化を口実に、過去の政府答弁に反する韓国軍への「1万発の銃弾提供」を決定するという異常な状況が続いている。

消費税増税と社会保障改悪を前提とする2014年政府予算原案の中で、防衛費関係費は4兆8846億円（28%増）の突出した額を確保するという軍事大国化の姿勢も明確である。

このような、「戦争ができる国」に向けた諸条件整備の延長線上に、今回の靖国参拝があることは明白である。この点で、今回の靖国参拝は、憲法に依拠した「平和な日本」の実現を求める国民世論に真っ向から挑戦する安倍首相の姿勢を示したものである。

国民世論にも、国際社会の秩序にも挑戦し、「戦争ができる国」づくりを進める安倍首相の独裁的暴走をくい止め、破たんし追い込むため、国民的運動を全国に広げていくことが求められている。

全労連は、国民諸階層、市民のたたかいたとも連携し、2014年早々から、憲法改悪、雇用・くらし破壊の暴走政治阻止のたたかいに奮闘する決意である。

2013年12月27日

全国労働組合総連合

事務局長 小田川義和



神馬

岩波 美智子さん 画